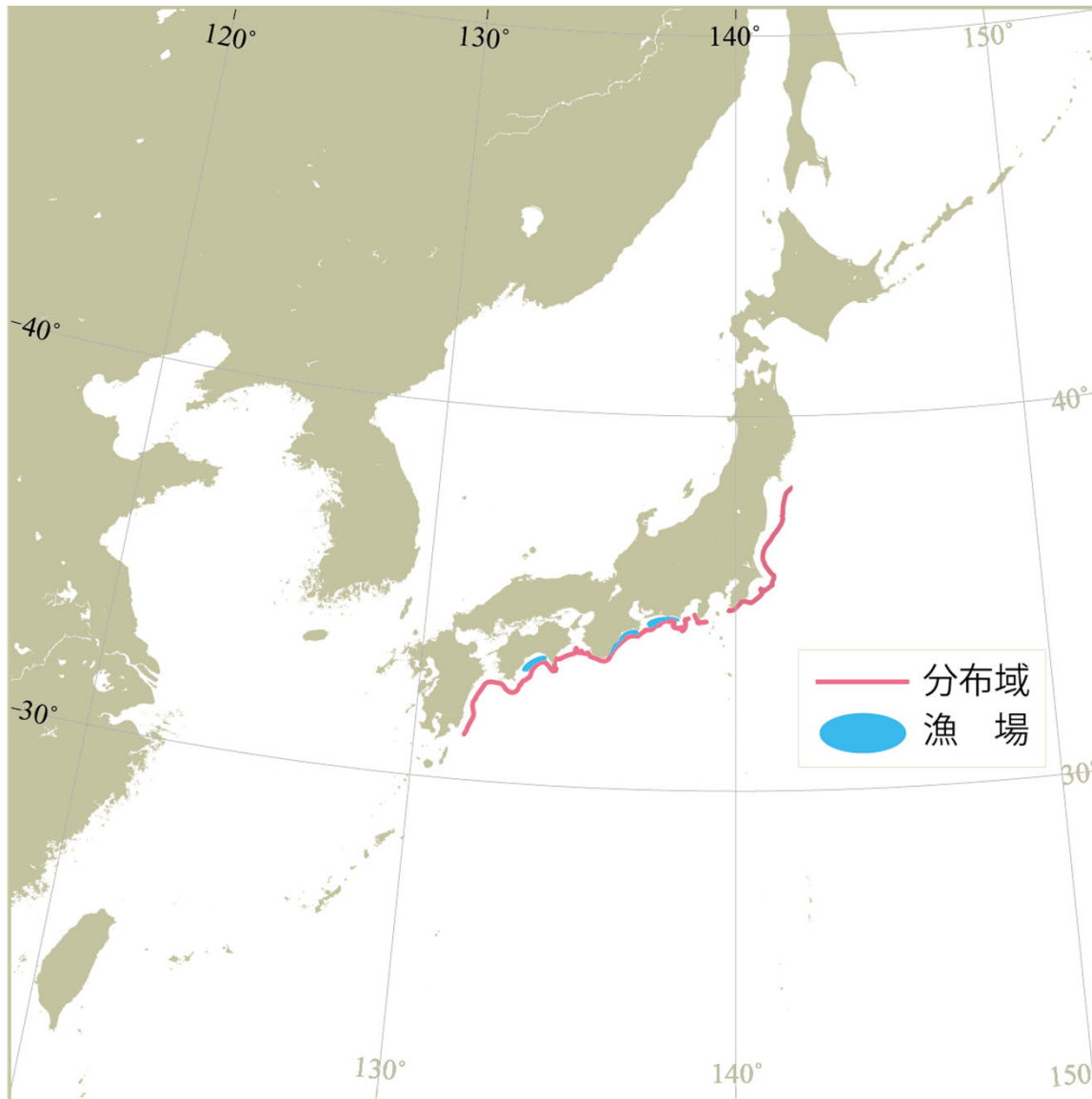




ニギス太平洋系群 令和7年度資源評価結果

生物学的特性

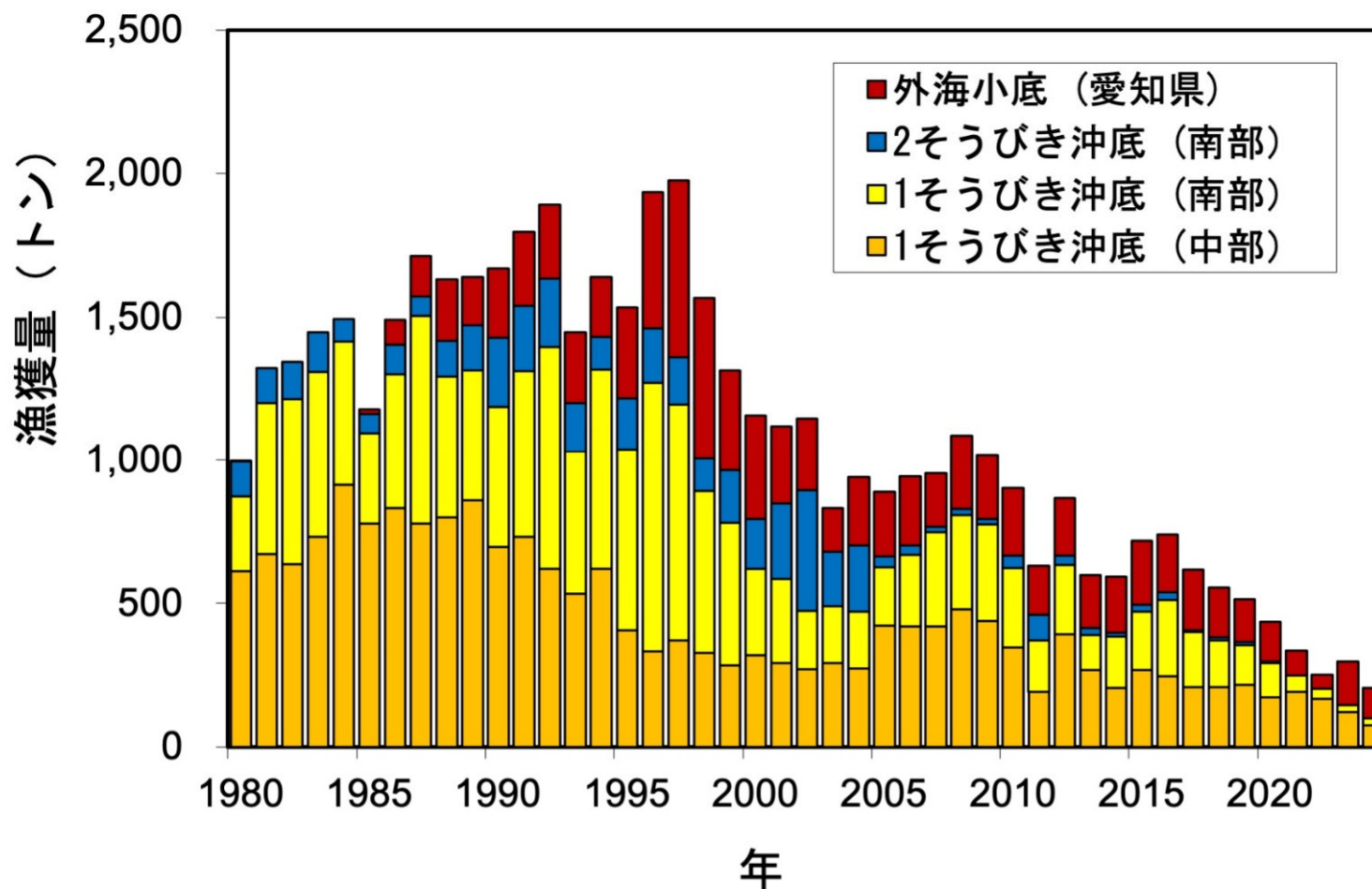


生物学的特性

- 寿命：3歳
- 成熟開始年齢：2歳
- 産卵期・産卵場：9月を除くほぼ周年、盛期は2～3月で11～12月にも小さなピークが出現、水深200～300mの海底付近
- 食性：幼稚魚期は主にカイアシ類、成長に伴い主にオキアミ類
- 捕食者：中・大型の底魚類

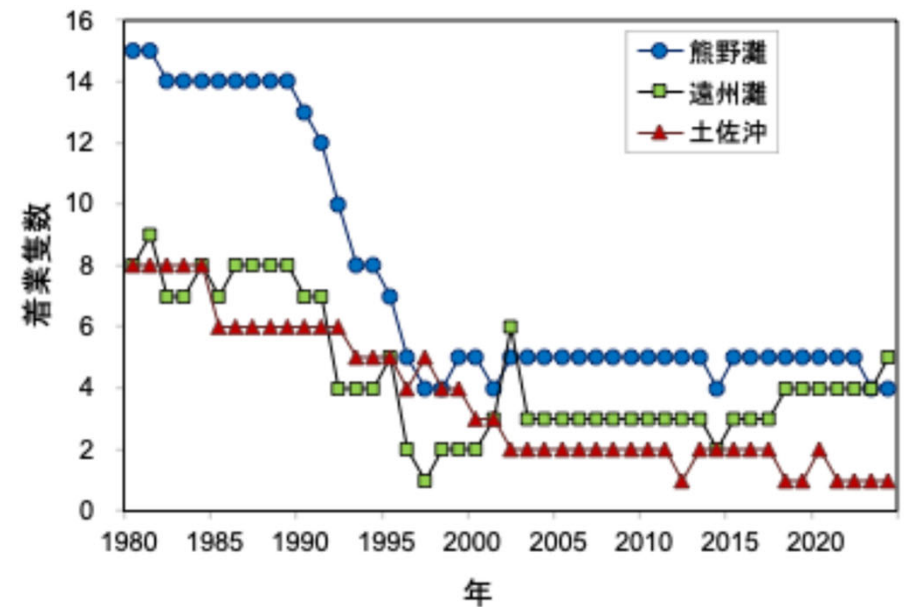
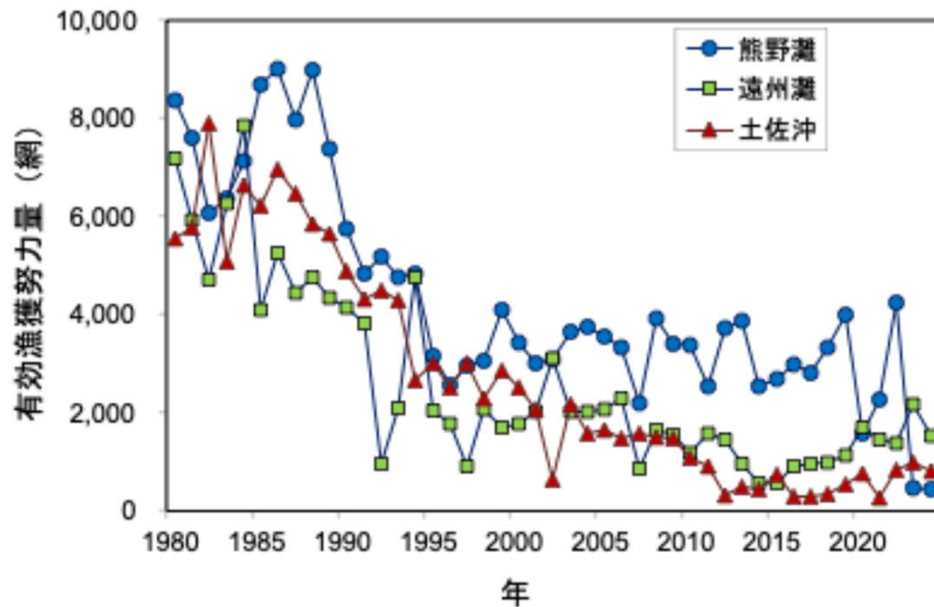
- 本系群の主要な漁場は太平洋の中部海域と南部海域

漁獲の動向①



- 2024年の漁獲量：207トン（2023年：299トン）
- 主な漁業種類は1そうびき沖合底びき網漁業（1そうびき沖底）と愛知県の外海小型底びき網漁業（外海小底）
- 漁獲量は1990年代後半から減少傾向が続いている

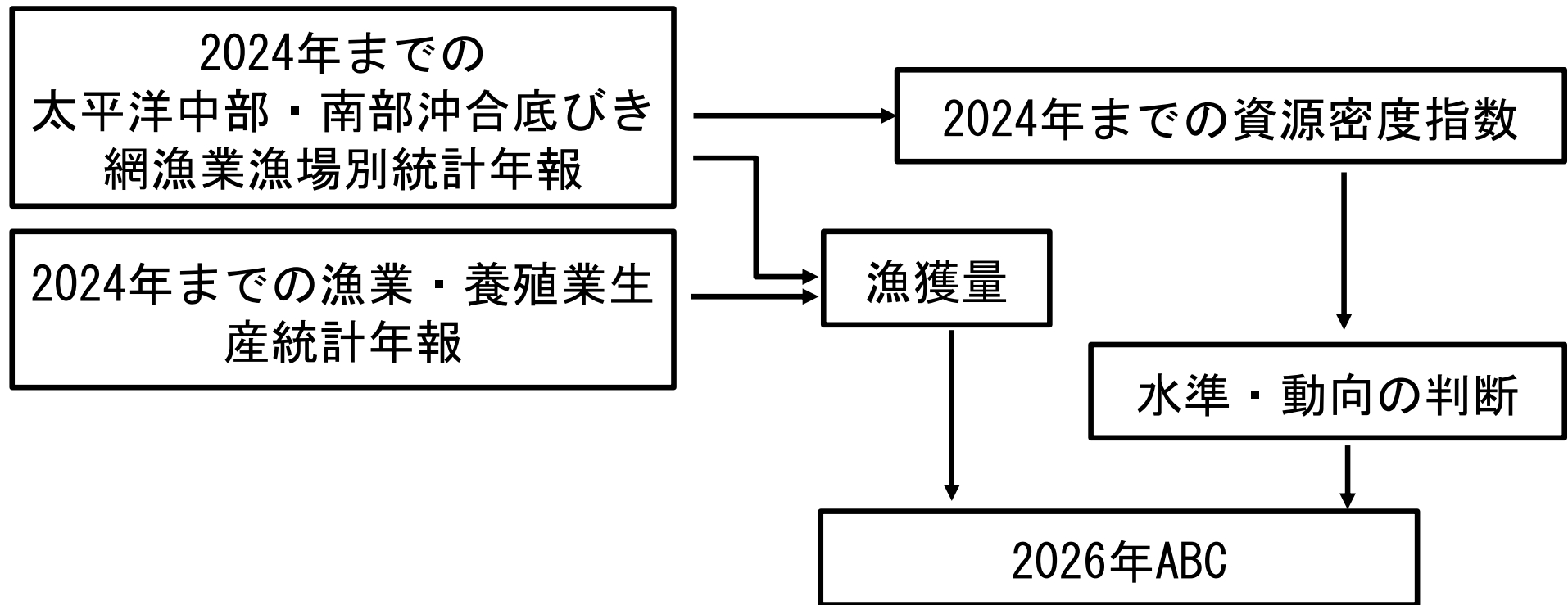
漁獲の動向②



- 1そうびき沖底の代表的な小海区における有効漁獲努力量は1980年代は高かったが、その後は横ばい～減少傾向で推移
- 着業隻数も1990年代ごろに大きく減少し、その後は横ばい

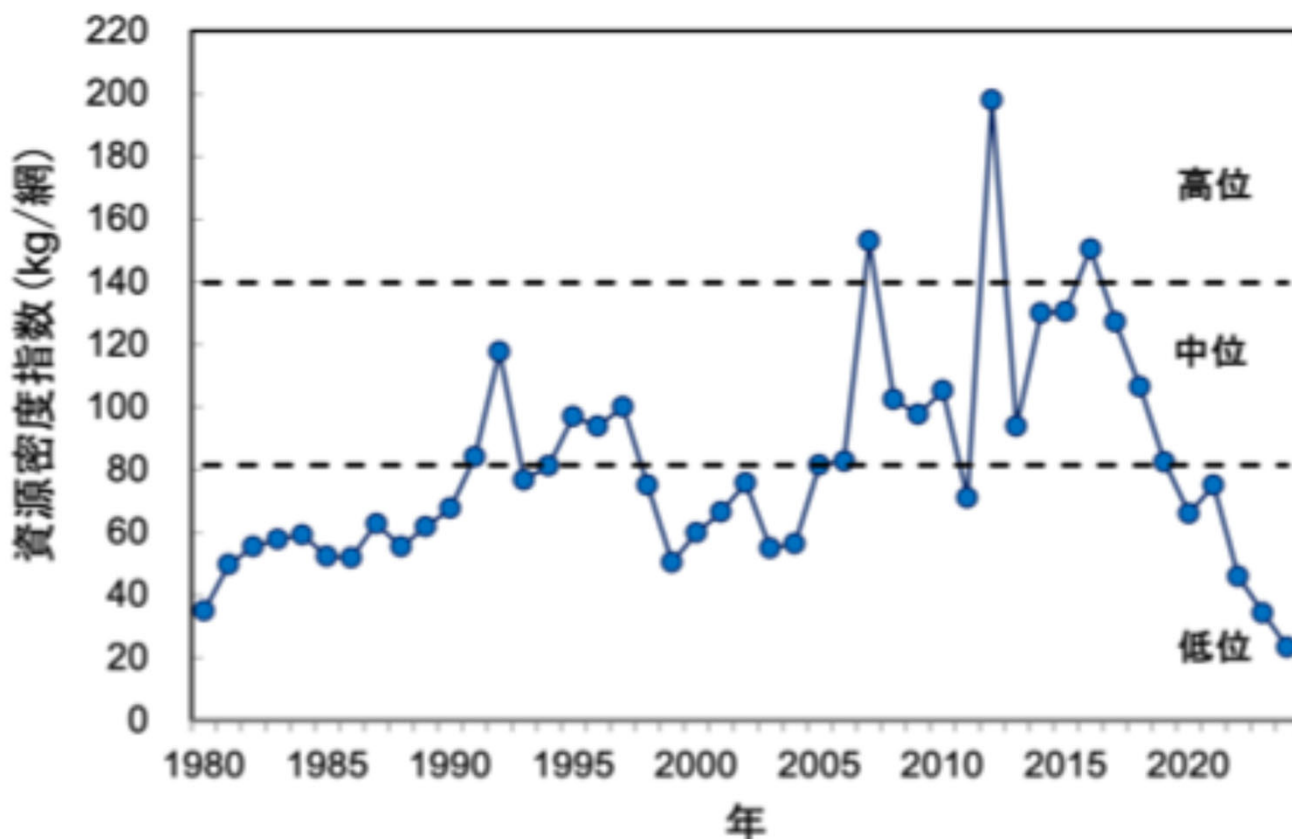
※有効漁獲努力量：有漁漁区数と漁獲量の積を各漁区の1網当たり漁獲量の総和で割った値

資源評価の流れ



- ※ 資源密度指数：漁獲量を有効漁獲努力量で割った値
熊野灘、遠州灘、土佐沖の1そうびき沖底の資源密度指数の幾何平均値を系群全体の資源量の指標値とした
- ※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源密度指数81、中位／高位：資源密度指数140
(熊野灘、遠州灘、土佐沖における1980年以降の資源密度指数の最大値と最小値の間を3等分して算出)

- 熊野灘、遠州灘、土佐沖の1そうびき沖底の資源密度指数の幾何平均値で水準・動向を判断
- 資源水準：2024年の資源密度指数は23であり「低位」
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の資源密度指数の推移から「減少」

資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 熊野灘、遠州灘、土佐沖の1そうびき沖底の資源密度指数に基づいて資源状態を判断した

2026年ABC

管理基準	Target/Limit	2026年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの 増減%)
0.7・Cave3-yr・ 0.672	Target	95	—	—
	Limit	119	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1)により、
 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (低位水準、資源動向が減少である場合の標準値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間(2022~2024年)の平均漁獲量)
- γ_1 : 0.672 (資源密度指数の直近3年間の傾きと平均値から求まる係数)